日本機械学会バイオエンジニアリング部門

第 103 期／第 104 期 合同拡大幹事会 議事録

日時： 2026 年 3 月 31 日（火）13:00～16:00　ハイブリッド

場所： 日本機械学会事務局　第三会議室（KDX 飯田橋スクエア）＋Teams

出席者：

103 期　中村 匡徳（部門長），藏田 耕作（部門幹事），杉田 修啓（総務委員長），坂元 尚哉（企画委員長），世良 俊博（広報委員長，Beng38 実行委員長），百武 徹（渉外委員長，年次大会 2026 担当），牧 功一郎（次世代委員長），キム ジョンヒョン（渉外幹事），亀尾 佳貴（企画幹事），阿部 結奈（次世代幹事），大谷 智仁（広報幹事）*，吉野 大輔（総務幹事）*

104 期　中村 匡徳（部門長），藏田 耕作（副部門長），三好 洋美（部門幹事），杉田 修啓（総務委員長），世良 俊博（広報委員長，Beng38 実行委員長），百武 徹（渉外委員長，年次大会 2026 担当），キム ジョンヒョン（渉外幹事），亀尾 佳貴（企画幹事），阿部 結奈（次世代幹事），大谷 智仁（広報幹事）*，吉野 大輔（総務幹事）*

欠席：村越 道生（104 期企画委員長），照月 大悟（104 期次世代委員長）

オブザーバー： 藤崎 和弘（BFro36 実行委員長）*，曽根原（日本機械学会），秋山（日本機械学会）

アドバイザリーボード出席者： 片岡 則之*，工藤 奨*，中西 義孝*

*はオンライン

［資料］

103-4-00　第 103 期第 4 回運営委員会 議案
103-4-01　第 103 期第 3 回運営委員会 議事録
103-4-02　バイオエンジニアリング部門重点活動報告と共催講演会報告書
103-4-03　第 104 期部門運営委員会等の構成
103-4-04　各種委員等の推薦および推薦予定者 2026
103-4-05　講演会開催データ年代順 2026
103-4-06　日本機械学会バイオエンジニアリング部門運営規程_20260331 改定案
103-4-07　2025 年度部門賞の選考結果_v2
103-4-08　部門活動費（仮決算）20260311v2
103-4-09　部門行事関連仮決算書
103-4-10　分野連携利用報告
103-4-11　創立 130 周年記念 10 年のあゆみ執筆依頼・要項・目次
103-4-12　創立 120 周年記念（2017 年）BE 部門の記事
103-4-13　第 38 回バイオエンジニアリング講演会予算書
103-4-14　2026 年鑑_学会誌_20260327
103-4-15　第 37 回バイオエンジニアリング講演会開催報告書
103-4-16　第 36 回バイオフロンティア講演会 2025 開催報告書
103-4-17　臨時企画委員会（BF36）記録＋追記

定足数の確認　構成員 15 名（過半数 8 名）
・出席　対面：11 人，オンライン：2 人
・欠席　2 名

【会議冒頭】
・会議開始時に１０名が対面出席，２名がオンラインで出席しており，構成員の過半数を占めることから，本会の成立条件を満たしていることが確認された．
・第 104 期（2026 年度）体制への変更として，部門長：中村匡徳（名古屋大学），副部門長：藏田耕作（九州大学），三好洋美（東京都立大学），企画委員長：村越道生（金沢大学），次世代委員長：照月大悟（信州大学），事務担当：秋山宗一郎（機械学会）となることが紹介された．

［メール審議・承認済み事項の確認］

以下，(1)～(3)について，中村匡徳（名古屋工業大学）先生より報告された．

（1）第 103 期 第 3 回運営委員会 議事録（12 月 18 日承認済み）　［資料 103-4-01］

メール審議で議事録が承認され，部門 HP で公開済みである．

（2）2025 年度日本機械学会若手優秀講演フェロー賞の選出結果について（2 月 3 日承認済み）

①受賞者が在学中に表彰状をお送りしたい，②奨学金返還免除の材料になり得るので受賞者に早期に通知したい，という 2 つの理由により，選出結果を急ぎメール審議した．提案通り，6 名への授賞が承認された．

・岩井 俊樹　君(慶應義塾大学)
・太田 倫汰郎 君(茨城大学)
・出口 航至　君(同志社大学)
・武藤 聖　君(東京都立大学)
・磯部 勇雅　君(慶應義塾大学)
・岡田 爽汰　君(東京都立大学)

（3）重点活動報告書の提出について（2 月 26 日承認済み）　［資料 103-4-02］

JSME 本部より，2023～2025 年度の部門活動実績や成果を報告する重点活動報告書の提出が求められていた（3 月 6 日締切）．この報告書の内容（重点活動評価）と講演会参加者数・事業収支（定量評価）によって部門が点数付けされ，その点数に基づき，来年度以降の部門の継続可否，代表会員数枠，部門賞（人数）枠が決められることになる．部門長と部門幹事で作成した原案をメール審議で諮り，承認された．なお，参考資料として共催講演会報告書を合わせて付す．

［審議・承認事項］

1．部門運営・構成関係

（1）第 103 副部門長選挙の結果［選挙管理担当　石川 前部門長，吉野 総務委員会幹事］

候補者の推薦（12 月）と投票（1 月）を経て現副部門長が選出された．選挙管理担当者からその結果についてのご報告いただき，運営委員会にお諮りする．
1 回目選挙で中村匡徳（名古屋工業大学）が副部門長として選出されたことが，吉野総務幹事より報告され，承認された．

（2）第 104 期部門運営委員会等の構成［藏田 部門幹事］　［資料 103-4-03］

(a) 代議員名簿
(b) 運営委員会・所属委員会名簿
(c) アドバイザリーボード・シニアアドバイザー名簿
(d) 部門研究会一覧

中村部門長より説明され，承認された．

（3）各種委員等の推薦および推薦予定者［藏田 部門幹事］　［資料 103-4-04］

(a) 学会出版センター委員
(b) 会員部会委員
(c) 分野連携委員
(d) 日本機械学会新学術誌（生体工学，医工学，スポーツ工学，人間工学）
(e) 部門講演会・バイオフロンティア講演会関係
(f) 年次大会関係
(g) 関連学会対応
(h) 技術ロードマップ委員会：企画委員会委員
(i) 専門会議への対応委員
(j) 機械工学事典編集委員

中村部門長より説明され，承認された．

（4）部門講演会の開催地について［藏田 部門幹事］　［資料 103-4-05］

第 39 回バイオエンジニアリング講演会（2027 年 5～6 月）を北陸信越地区（新潟大，小林公一先生）で開催することについて中村部門長より説明された．他学会との関係を見て，現在日程は調整中である．今後の開催について次の通り確認された．

第 38 回バイオエンジニアリング講演会（2026 年 6 月 13～14 日，東京理科大，世良先生）
第 37 回バイオフロンティア講演会（2026 年 12 月 18～19 日，関西大，田地川先生）

（5）バイオエンジニアリング部門運営規程の改定について［杉田 総務委員長］［資料 103-4-06］

杉田総務委員長より，以下①～③の BE 部門運営規定について改訂案が提示された．①と②については，本幹事会では意見聴取のみとするとし，承認は次回以降の運営委員会に委ねられた．③については，改訂が承認された．

① 副部門長が在任年度途中で欠けた場合
・任期途中の副部門長が欠けたときには，副部門長選挙を実施して後任を補充する．

② 部門長が在任途中で欠けた場合

・任期途中の部門長が欠けたときには，副部門長が部門長に昇格する，もしくは昇格せずに副部門長がその職務を代行する．昇格した場合の部門長の任期は当該年度末までとする．
本提案については前部門長が代行する．選挙を行うと時間を要するので避けたい．などの意見が出た．

③ 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞選賞委員会事務局（第 12 項の「総務委員会」の 3 つ目の黒丸）

・受賞候補者の選考管理は，各講演会の担当者と協力してあたる．選考にあたっては，「日本機械学会若手優秀講演フェロー賞に関する規定」に基づく．なお，受賞者の決定は「部門賞運用の申し合わせ」に準じる．
本件は，若手優秀講演フェロー賞をバイオフロンティア講演会以外の講演会（BE 講演会や年次大会）でも出せるようにするための提案であることも併せて説明された．
承認後，バイオエンジニアリング部門のホームページの修正も必要である旨が補足された．
→　2026/4/2 時点で修正されていることを確認した．

（6）2025 年度部門賞（功績賞，業績賞，瀬口賞）の贈賞について［杉田 総務委員長］
［資料 103-4-07］

部門賞（功績賞，業績賞，瀬口賞）受賞者の選考結果について説明され，承認された．
【功績賞】和田 成生 先生（大阪大），大島 まり 先生（東京大）
【業績賞】中西 義孝 先生（熊本大）
【瀬口賞】重松 大輝 先生（山口大）
当部門の規模では部門賞を 3 件まで出せる．個人名を冠した賞（瀬口賞）はこの数から除外できるので，功績賞，業績賞で 3 件の表彰となる（原則は各賞 1 名）．
第 38 回バイオエンジニアリング講演会（6 月，東京理科大）で表彰される．

（7）第 103 期収支仮決算報告［杉田 総務委員長］　［資料 103-4-08, 09, 10］

第 103 期収支仮決算について杉田総務委員長より説明がなされ，承認された．説明の要点および出された意見は以下の通り．
・決算の細目を可視化するために，エクセルシートを作成した．今後，このシートを Teams で共有して，都度アップデートしていきたい．
・部門運営（BE＆BF 講演会，若手の活動支援，バイオフロンティアシンポジウム，日韓ジョイントシンポジウムなど）に年間およそ 700 万円強かかっている．
・主な収入源は BE 講演会（400 万円強），BF 講演会（300 万円強），分野連携に対する補助金（数 10 万円）．
・企画委員会で使用している分が可視化されていないので，それについて改善が要求された．

（8）「日本機械学会 10 年のあゆみ」記事執筆について［中村 部門長］　［資料 103-4-11, 12］

2027 年に JSME が創立 130 周年を迎えるにあたり，記念事業の一環として「日本機械学会 10 年のあゆみ」を編纂し，本会の足跡を辿る資料として残すことになり，記事執筆の依頼があった．分量は 4～8 ページ，締切は 8 月末．中村部門長より執筆協力について依頼があった．

（9）部門資料の保管について［中村 部門長］

・名古屋大学の松本健郎先生から提供された「部門に関連する講演会の予稿集などの資料」について，JSME 本部倉庫で保管（段ボール 1 箱で 105 円/月）することについて，提案があり，承認された．
・閲覧請求方法について質問があり，機械学会事務局から多少の時間と金銭はかかるが閲覧請求は可能であるとの回答がなされた．
・保管資料のリストの作成について世良広報委員長から提案され，中村部門長が作成することを了解した．
・World Congress of Biomechanics の Abstract book　第 1 回（1992）～第 9 回
・APBiomech の Abstract book　第 1 回（2004）～第 13 回
・日本スイスバイオメカニクス会議の Abstract book　第 1 回（2001）～第 6 回
・日米(星)中バイオメカニクス会議の抄録集（本）　第 1 回（1983）～第 5 回（1998）
＜参考＞
BF＆BE 講演会の講演原稿予稿集は JSME 本部の倉庫にすでに保管されている．また，2000 年度以降の予稿集は電子的にも保管されている．
バイオエンジニアリング学術講演会・セミナー講演論文集
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsmebs/-char/ja
バイオエンジニアリング講演会講演論文集
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsmebio/-char/ja
バイオフロンティア講演会講演論文集
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsmebiofro/-char/ja

（10）その他

特になし

2. 部門関連行事

（1）日韓ジョイントシンポジウム（2026 年韓国開催）［百武 渉外委員長，キム 渉外幹事］

キム渉外幹事より下記概要が説明された．
2025 年 9 月に北大で開催された年次大会では日本側が主催．
今年は以下の通り韓国側が主催．
2026 KSME bioengineering Division Conference
開催日：2026 年 4 月 22 日(水)～24 日(金)
開催地：Yeosu ヴェネチアホテルアンドリゾート
日本から 3 名派遣（BE 部門 2 名, SHD 部門 1 名）：
BE 部門 2 名：佐久間 臣耶（九州大），川嶋 大介（千葉大）
SHD 部門 1 名：小池 関也（筑波大学）
分野連携企画の支援金 120,000 円を 3 名の航空券代に使用する予定（1 人当たり 4 万円）．
ただし，この支援金額だと，交通費ですら全てを払うことができないため，講演者が自腹を切ることになることも説明された．これに対して，今後，発表者を減らす，あるいは，部門から不足分を補うなどの措置を検討するべきだというような意見が出された．

（2）第 38 回バイオエンジニアリング講演会［世良 BE38 講演会委員長］　　［資料 103-4-13］

世良講演会委員長より講演会準備状況について説明があった．

開催日：2026 年 6 月 13 日（土）～14 日（日）
開催地：東京理科大学 葛飾キャンパス
実行委員長：世良 俊博（東京理科大）
幹事：宮野 貴士（東京理科大）
URL：https://www.jsme.or.jp/conference/bioconf26/index.html
プログラム：OS が 12 件，GS が 4 件を予定．その他として総会，企業説明講演会，ポスターのフラッシュ動画再生，受賞講演（瀬口賞＆業績賞）
演題締切： 3 月 30 日（月）※4 月 6 日（月）
抄録・ポスター動画提出期間：4 月 20 日（月）～ 5 月 11 日（月）
表彰：優秀ポスター賞加えてフェロー賞に推薦

・予算書について審議され，承認された．
・現状，GS に 2 件しか申し込みがないとの説明があり，追加で募集するべきとの意見が出された．
・若手優秀講演フェロー賞の対象になることが承認され，演題の追加募集の際これを明記すること，また，HP にもこの件を記載することの 2 点について示された．

（3）10th World Congress of Biomechanics（WCB2026）［大橋 委員］

中村部門長より概要が説明された．前回運営委員会からの情報更新はなし．
第 10 回バイオメカニクス世界会議
開催日：2026 年 7 月 11 日（土）～15 日（水）
開催地：Vancouver Convention Centre, Vancouver, Canada
URL：https://wcb2026.com/

（4）2026 年度年次大会［百武 年次大会 2026 担当］

百武年次大会 2026 担当より申し込みが 2 週間延長になった旨説明があった．
開催日：2026 年 9 月 6 日（日）～9 日（水）
開催地：東海大学 湘南キャンパス
部門代表委員：百武徹（横浜国立大）
URL：https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/jsme2025
講演申込受付開始 2026 年 2月2日（月）
講演申込締切 2026 年 3月30日（月）
発表採択通知 2026 年 6月15日（月）（予定）
講演原稿提出締切 2026 年 7月24日（金）
早期事前登録締切 2026 年 8月14日（金）

塚本先生（防衛大）より，OS「衝撃波・超音波の医療・産業応用とその現象解明」（BE 部門が幹事部門（流体，機力が連携））に関連して基調講演（以下詳細）を企画したいとの申し出があったとの説明がなされた．年次大会においては各部門から基調講演は 1 件しか出せないという内規があるが，現状，BE 部門では 2026 年度年次大会にて基調講演企画がないことから，本申し出を承認したと中村部門長が説明した．

講師：水書先生（東海大）　爆発による疾患である「爆傷」についての講演

（5）第 37 回バイオフロンティア講演会［田地川 BF37 講演会委員長］

中村部門長より準備状況について説明された.

開催日：2026 年 12 月 18 日（金）～19 日（土）

開催地：関西大学　千里山キャンパス　100 周年記念会館

実行委員長：田地川 勉（関西大）

幹事：大友 涼子（関西大）

（6）第 39 回バイオエンジニアリング講演会［小林 BE39 講演会委員長］（上で承認されれば）

中村部門長より概要説明があった．開催日については他学会の動向を見て，次回の運営委員会までに決定したいとの説明がなされた.

開催候補日：2027 年 5 月 22-23 日，29-30 日，6 月 5-6 日，12-13 日（いずれも土日）

開催地：新潟大学五十嵐キャンパス（新潟市西区五十嵐 2-8050）総合教育研究棟

実行委員長：小林 公一（新潟大学医学部保健学科）

幹事：平元 和彦（新潟大学工学部）

（7）2027 年度年次大会

中村部門長より概要説明があった．前回運営委員会からの情報更新はなし.

開催日：2027 年 9 月 5 日（日）～8 日（水）

開催地：九州大学伊都キャンパス

部門代表委員：藏田耕作（九州大）

（8）SJB2027［中村 部門長］

中村部門長より概要説明があった．前回運営委員会からの情報更新はなし.

7th Switzerland-Japan Workshop on Biomechanics

開催日：2027 年 9 月 13 日（月）～17 日（金）

場所：Riederalp, Switzerland

実行委員長：Bert Muller, Masanori Nakamura

（9）AP Biomech Conference 2027

中村部門長より概要説明があった．前回運営委員会からの情報更新はなし.

開催日：2027 年

開催地：Bali, Indonesia

（10）第 38 回バイオフロンティア講演会

中村部門長より，今後，副部門長，幹事にて開催場所の検討進める旨，説明があった.

開催日：2027 年 11～12 月

開催地：

実行委員長：

（11）その他

特になし

3. 共催・協賛・後援行事

資料提示のみ.

（1）ROBOMECH2026

ロボティクス・メカトロニクス講演会 2026

開催日：2026 年 6 月 28 日（日）～7 月 1 日（水）

開催地：福岡国際会議場

URL: https://robomech.org/2026/

（2）LIFE2026（日本機械学会 福祉工学シンポジウム 2026，第 41 回ライフサポート学会大会，第 25 回日本生活支援工学会大会，合同大会）

開催日：2026 年 9 月 2 日（水）～4 日（金）

開催地：日本工業大学 埼玉キャンパス

幹事学会は，日本機械学会（機素潤滑設計部門）

（3）日本臨床バイオメカニクス学会　第 53 回学術集会

開催日：2026 年 10 月 30 日（金），31 日（土）

開催地：京王プラザホテル札幌

バイオエンジニアリング部門とのジョイントシンポジウム

（4）その他

特になし

［報告事項］

1. 部門運営関係

（1）2025 年度フェロー選考経過報告［中村 部門長］

部門より推薦していた日本機械学会フェロー候補者 1 名が本会において承認されたことが中村部門長より報告された.

長山 和亮 先生（茨城大学）

（2）JSME「機械工学年鑑」2026 執筆について［世良 広報委員長］　　［資料 103-4-14］

前回の運営委員会で承認された方針に従い，世良広報委員長が BE 講演会，BF 講演会，AP Biomech2025 の抄録を基に, 話題をまとめた原稿を執筆した. 中村部門長が緒言を加えて, JSME 本部へ提出した. 機械工学年鑑への貢献について，今後，部門としてどのように進めていくかは継続審議とすることになった．また，BE 講演会などの OS 担当者にそれぞれ企画内容（発表内容）をまとめてもらい，それを集約するのはどうかという提案もなされた.

（3）その他

特になし

2. 部門関連行事

（1）第 37 回バイオエンジニアリング講演会［須藤 BE37 講演会委員長］　　［資料 103-4-15］

2025 年 5 月 24～25 日に慶應義塾大学で開催された第 37 回バイオエンジニアリング講演会について，開催概要，収支内訳，表彰，機器展示，申し送り事項など中村部門長より代理で報告があり，第 38 回バイオエンジニアリング講演会における検討事項が説明された．重要検討課題は以下の通り．

・事前登録忘れの防止とその対応策

・フラッシュプレゼンテーションの動画の音量の課題（各人より提出されるファイルの音量がそれぞれ異なるので，それを単純につなげると，音量の大小が出て聞き取りづらいものがある）

・ポスター投票方法が分かりにくいとの説明があった

・発表者に各自の持ち時間を伝えるようオーガナイザーへの伝達が必要（セッションごとに発表人数が異なるため，発表時間が一律に定まっていない）

・スタンプラリーの景品の余剰

・企業展示の工夫（リクルートブースなのか，機器展示なのかを明確化すること）

（2）第 36 回バイオフロンティア講演会［藤崎 BF36 講演会委員長］　　［資料 103-4-16］

2025 年 12 月 6～7 日に弘前大学で開催された第 36 回バイオフロンティア講演会について，開催概要，収支内訳，表彰，機器展示，申し送り事項などを藤崎 BF36 講演会委員長より報告があった．重要検討課題は以下の通り．

・企業展示への誘導

・開催地が寒冷地であったため，交通に支障がでた．開催時期に関連して場所を考えるべき．

（3）第 90 回日本循環器学会学術集会 日本機械学会・日本循環器学会ジョイントシンポジウム

［高嶋先生］

中村部門長より概要説明があった．

セッションタイトル：「循環器疾患の診療向上に向けての医工連携」

開催日時：2026 年 3 月 21 日（土）10：30-12：00

開催会場：第 2 会場（福岡サンパレス 2F パレスルーム A）

世話人兼座長：

　三谷 義英 先生（三重大学医学部付属病院 周産母子センター）

　高嶋 一登 先生（九州工業大学 大学院生命体工学研究科）

演者：

・白石 公 先生（国立循環器病研究センター 小児循環器内科）

「リアルとバーチャルの融合により先天性心疾患の外科手術を支援する」

・板谷 慶一 先生（名古屋市立大学 心臓血管外科，Cardio Flow Design Inc.）

「MRI の flow 評価」

・中島 雄太 先生（熊本大学 大学院先端科学研究部）

「微量の血液からがんの早期発見と再発予測を実現する手のひらサイズのデバイス」

・玉川 雅章 先生（九州工業大学 大学院生命工学研究科）

「乳幼児末梢静脈血管内カテーテルまわりの流れおよび先端の血管壁接触によるせん断応力による血栓評価」

（4）講習会関係

中村部門長より概要説明があった．実施したのは(i)のみ．現在，講習会の実施は属人的であるため，開催が不定期になってしまう．部門として実施できるような体制を構築することが課題.

(i) 筋骨格モデルによるバイオメカニクス解析入門

（2025 年 12 月 11～12 日に倉元先生が中心となって実施．）

(ii) 次世代診断治療支援のための血流シミュレーション～基礎理論編～

(iii) 次世代診断治療支援のための血流シミュレーション～実践編～

(iv) 有限要素法による骨のバイオメカニクス解析入門

（5）その他

特になし

3. 各種委員会等活動報告

（1）企画委員会［坂元 企画委員長］　［資料 103-4-17］

坂元企画委員長より今期活動内容のまとめについて報告された.

- ５回の委員会開催
- 2025 年度年次大会の OS・特別企画等取りまとめ
- 第 37 回バイオエンジニアリング講演会 OS 企画取りまとめ，運営補助
- 第 36 回バイオフロンティア講演会運営補助

反省，改善に向けたご意見

- バイオエンジニアリング講演会での OS メインの構成について再検討が必要．部門内で，最新研究等を情報共有する機会が現状存在しない．一般セッション発表者数の確保も課題.
- 講演会に関するルールの見直し：抄録未提出者の発表の扱い（発表可否），受賞講演の抄録の要否.
- 各講演会での企業ブースへの訪問者確保について引き続き検討が必要．特にバイオフロンティア講演会では講演中は全く参加者がいない時間帯の発生.
- バイオフロンティア講演会の開催時期の見直しも必要か？冬季は開催地に制限があり，またインフルエンザ流行のリスクも高い（別添参照）.
- 年次大会での部門表彰・若手フェロー賞に関する部門規定の周知が必要.
- 各会で講演会に対するアンケートを実施予定.

以上の報告に対して，次のような意見交換がなされた.

- 機械学会本部としての見解は，発表にあたり予稿集（学会参加者のみに配布）の場合は抄録提出が不要，論文集（後日販売）の場合は必要.
- 大学の講義室を会場にすることが多いので土日に開催されてきたが，休日開催の見直し，金土の開催などを検討してもよい.

- これまでBE講演会のOSは個人による企画提案を採用する形で開催されてきた．大会テーマを掲げて講演会を実施している学会にならい，企画委員会（あるいは部門）でテーマを決めて，企画委員会セッションを開催してもよい．講演内容の新陳代謝のため．
- 企業ブースへの訪問者確保については大学のキャリア支援課に協力を得て，開催地となる大学の一般学生（講演会参加者以外の学生）も訪問できるようにしてはどうか？　次回のBF講演会（関西大）ではその実現に向けて準備をしている．

（2）総務委員会［杉田 総務委員長］

杉田総務委員長より今期活動内容について報告された．

1. 規定の改訂

・BE部門運営規定の変更

➢ 機械学会本部門の規定が改訂されていたが，子規定であるBE部門の規定が改訂されていなかったため，現状に合わせて改訂した

➢ 部門ジャーナル編集委員会委員長を所属委員長から除いた．所属委員長は長期の任期を務めることができないため．運営委員会にはオブザーバとして参加

➢ 部門講演会の運営に関する指針を追記

・副部門長選挙の規定変更

➢ 部門長の任期が複数部門含めて3年となり，再度副部門長になることが可能となったため

・一般表彰規定と運用申し合わせの変更

➢ 他部門との合同講演会（コロケーション）や他部門との合同セッションにおける表彰が増えていることから，実状に合わせた変更とルール策定を実施

➢ 部門ジャーナル編集委員会の取り扱い変更による

2. 瀬口賞受賞資格と報告の変更

・「研究発表時に35歳以下」となっており，何歳でも応募できた規定について，「原則として、当該年度末に満 36 歳以下，または博士号取得から 5 年以内の者とする。ただし，出産・育児等により研究に専念できない期間があった場合は、満 40 歳以下の研究者とする。その際，性別は問わない。」に変更

・瀬口賞授与のご遺族への報告取りやめを明記

3. 渉外・企画・次世代委員会執行金額の把握

・執行状況を管理する体制を取った

4. 予算執行金額の変更

・部門研究会→2.5万円から5万円に

・次世代委員会→20万円から40万円に

5. 各賞への推薦，選賞

・令和8年度文部科学大臣表彰「若手科学者賞」候補推薦（松永大樹先生（大阪大学・准教授））

・日本機械学会賞（論文賞7件，奨励賞1件）

・業績賞，功績賞，瀬口賞

・フェロー賞

6. 副部門長選挙の2度の実施

○申し送り事項

1. 任期開始前の部門長予定者が欠けたときのルールがあいまい
2. 瀬口賞への応募増への取り組み
3. 優秀講演フェロー賞の投票は判定できず，困難　→抄録の内容で選賞しているが判定が難しい．
4. 副部門長選挙の投票日数の短縮化　→現状は 2 か月を要しているが，電子システムを使うようになったので短縮可能．電子投票システムを占拠しないように短くする．

以上の報告に対して，

- 機械学会本体の規定改正が部門に展開されていない．→　部門長のみが出席できる部門協議会では周知している．部門規程がない部門もあり，その場合は本部の規程に準じて運用している．

という意見交換がなされた．

(3) 広報委員会［世良 広報委員長］

世良広報委員長より今期活動内容について報告された．

・ニュースレターの作成
　内容は例年通り（特別企画＋バイオエンジの OS まとめ），発行時期も 9 月上旬
　できるだけ読んでもらうようにバイオエンジ＆バイオフロンティア抄録集に追加
・部門 HP の管理＆最低限の一部英語化
　HP の構成やボタンなどすべての英語化は広報委員会だけでは大変
　どこまで英語にするかという問題はあるが，ちゃんと英語で読みたい人はブラウザの翻訳機能を使うはず
・メーリングリスト管理
　本部の会員管理システムの変更に伴いインフォメーションメール配信が変更（本部に依頼）
　bio-mc は今まで通り（管理者は大谷先生と世良先生，配信システムは周知されているか？）
・機械工学年鑑執筆
　今年からバイオエンジ＆バイオフロンティア（&AP バイオ）のトレンドをまとめる
　かなり大変
・その他
　SNS の活用（若いヒトはメールより SNS と思うが、SNS で発信するほどアクティブな活動があるか？）

以上の報告に対して，

- bio-mc は最近周知されていない．求人情報は流せない．講演会の抄録集で bio-mc の宣伝したこともあった．継続すべきかどうかも議論すべき．

という意見交換がなされた．

(4) 渉外委員会［百武 渉外委員長］

百武渉外委員長より今期活動内容のまとめについて報告された．

(1) 日韓ジョイントシンポジウム in 年次大会@札幌（2025 年 9 月 8 日）

日本側講演者：BE 部門２名：山田悟史（北大），石田駿一（神戸大）
SHD 部門１名：松田昭博（筑波大）

・韓国側のテーマはアプリケーション寄りで若干日本側とのギャップが感じられた．次年度はもう少しアプリケーション寄りの先生にお声がけした．

・シンポジウム後，次回開催に向けた打ち合わせ．同好会には参加せず個別に懇親会を開催．

・昨今の物価高の影響もあり，KSME 側からの来訪者のホテル手配や来年度の JSME 側の航空券補助などに関して分野連携企画の支援金のみでは予算的に厳しかった．→もう少し余裕ある予算設定をできたら良い．

(2) バイオフロンティア・シンポジウム in BF 講演会@青森（2025 年 12 月 6 日）

Prof. Neil Lin, UCLA

・聴講者の半数が学生であることを事前に伝えていたこともあり，学生へのメッセージ性もある内容でとても興味深かった．講演会後，情報交換会，懇親会に参加．

・講演会前後でネットワーキング：京都大学（牧先生），東京科学大学（池内先生），東京都立大学（坂元先生）

・次年度のバイオフロンティア・シンポジウム

予算の枠組みが企画委員会と合わせて 100 万円（うち約 50 万円使用）．次年度，企画委員会の方で予算がかかりそうなのでどうするか？近場にするか，なしにするか．

候補者がいれば情報を寄せて頂けるとありがたい．

(3) そのほか

○日本機械学会の他部門との連携

年次大会@札幌（2025 年 9 月）

・先端技術フォーラム「JSME（日本機械学会）・ISEA（国際スポーツ工学協会）ジョイントシンポジウム」　BE 部門１名　豊原 涼太（北大）

・先端技術フォーラム「小さな機械の最前線」

・部門横断セッション「マイクロ・ナノ工学とバイオエンジニアリング」

・部門横断セッション「機械工学に基づく細胞アッセイ技術」

他８件

○日本循環器学会との連携

・BE 講演会：日本循環器学会ジョイントセッション@慶大（2025 年 5 月 24 日）

・年次大会：ワークショップ@札幌（2025 年 9 月 9 日）

・日本循環器学会学術集会：日本機械学会・日本循環器学会ジョイントシンポジウム@福岡（2026 年 3 月 21 日）

○BE, BF 講演会での企業展示

リクルート系の企業にも積極的にお声がけし、新規開拓を行った．次回のバイオエンジニアリング講演会はもう少し増える？

○WCB2026

Social Session として JSME の Award session の proposal の提出を忘れていた．4 年に 1 回ということもあり，引継ぎがうまくできていなかった．次年度以降どうするかも含めて引継ぐ．

以上の報告に対して，

- 予算が厳しければ，バイオフロンティアシンポは隔年開催でもよいのではないか．例えば，日韓ジョイントシンポで訪韓する年にバイオフロンティアシンポを開催するなど．
- KSME とのジョイントセッションで訪韓する際の予算については，部門から補填するなどの措置が必要ではないか
- KSME とのジョイントセッションで韓国から日本に来てもらう際にも，ネットワーキングとして，全国の関連研究室を行脚してもらったらどうか

という意見交換がなされた．

(5) 若手による次世代戦略委員会［牧 次世代委員長］

牧次世代委員長より今期活動内容のまとめについて報告された．

報告：

・2025 年 8 月に若手研究者の学校を開催した．来年度も開催予定（長野の合宿施設？）．
・2025 年 12 月のバイオフロンティア講演会では，前夜祭を開催し，博士取得後の若手で集まった．
・2026 年度の委員長には信州大学の照月大悟先生にご就任いただく．

良かった点：

・昨年度の予算増額につづき，今年度も予算をより多く確保いただくことで，余裕のある運営が可能となった．
・（進学予定を含む）博士課程学生のネットワーキングが促進できたので，是非この流れを継続したい．
・バイオフロンティア講演会において，就活をしている若手を企業説明会に集める裏で，該当外の若手で集まり意見を吸い上げたのも良かった．

反省点・若手目線の改善点：

・「若手会員育成事業」助成への応募予定．
・「よく見るメンバー」で内輪でやっているように見えないか，工夫が必要．
・「ぼっち」の方がもっと参加しやすい工夫が必要（特に懇親会で、横割り・縦割りの時間をつくるなど）．
・学会への旅費支援の案が出ているが，継続的な議論が必要と感じる．
・若手研究者の学校でご支援をいただいたので，その際の議論内容は引き継ぎたい．
・学会から推薦できる賞・研究費などの情報整理があると良い．
・部門講演会での様々な表彰が増設されるとよい（たくさん質問した、講演会運営した学生への表彰、etc.）．
・若手・学生まで入っている名簿があると，色々協力しやすくて良い．
・Slack があると良い．

以上に報告に対して，

- 学振などをもらっていない院生に対する旅費支援を考えられないか？

- そもそも若手の会を知らない若手研究者や学生員がいるので，機械学会本部から名簿がいただけるとありがたい．→　【機械学会事務】こういう属性の会員にメールを送ってくださいという依頼ならば，本部で対応する．

という意見交換がなされた．

（6）JBSE 編集委員会　　［資料 103-4-18］

中村部門長より以下が報告された．

JBSE Paper of the Year 2005，Graphics of the Year 2005 の投票が行われ，それぞれ 3 編が選出された．6 月 13～14 日に開催される第 38 回バイオエンジニアリング講演会で表彰式が行われる．

（7）部門幹事

藏田部門幹事より以下が報告された．

＜活動のまとめ＞

●JSME 本部からの委員選出や書類作成の依頼への対応

●運営委員会の開催案内，議事進行案作成

●Teams の活用

・JSME 本部の担当職員，三役，各委員長と容易に，即時にコミュニケーションできる．

・メールよりもフランクにやり取りできる．

・常に Teams を起動しておかなければならず，煩わしい．

・他の会話にまぎれて依頼されたことが分からなくなる．→　機能を使いこなせていない？

●過去 2 年分の運営委員会資料を OneDrive にアップロード

＜課題＞

●委員委嘱の際の人選　→　かつては名簿があったようなので，今後整備したい．

●議題の取りまとめ　→　OneDrive で共有して共同編集できる？　慣れないと使いにくい．

●過去に決議されたことや資料を基にして，質問に答えてくれる Chatbot が欲しい．

（8）部門長

中村部門長より以下が報告された．

・部門幹事会内の連絡を効率化するために，Teams を導入した．

→　個人的にはかなりやり取りが楽になった．

・部門長に複数回就任できるように機械学会に進言した．

→　機械学会が規定を修正した　→　すべての部門を通じて合計 3 回までできるようになった．

・部門運営委員の任期（2 年）を 4 年にするように進言した（代議員は 4 年）．

→　機械学会が規定を修正した　→　部門運営委員の任期が 4 年となった．

・ファイル共有サーバーの導入

→　未達

・機械工学年鑑への貢献

→　部門として今後どうするかの協議が必要．今後、やめることも含めて検討する．

・若手への予算を拡充した．

→　40 万円までは使えるようにした.
・運営委員会への交通費を支給できるようにしようとした.
→　反対があり，断念.
・学会講演会の予算書の厳密化
→　おかげで 2025 年度はほぼトントンになった.
・瀬口賞の応募に関する条件緩和
→　性別に関係なく，子育て世代に配慮するように条件を変更した.
・可能な限り，議論できる運営委員会を目指した.
→　まあまあだったかな…
・現在の機械学会の規約に合わせて古かった規約を改訂した.
→　杉田総務委員長のおかげで，ほぼ改訂が完了した（と思う）.
・BE 部門の年間予算の透明化
→　杉田総務委員長のおかげで，わかりやすくなった.

以上の報告に対して，

- 交通費支給については，すくなくとも三役と委員長には支給するので対面で来てもらうように要請するという方法もある.
- 年鑑とニュースレターは内容が重なっているところがある．年鑑は継続した方がいいが，書く人は大変であり，やり方について継続審議が必要である.
- 年鑑はいきなり依頼されて慌てる．講演会のテーマを設定して OS を企画できれば，その OS と年鑑のキーワードとを対応させて，OS のオーガナイザーに執筆を依頼することもできる.
- 会計報告では 10 万円の黒字が報告されていたが，黒字額は少ない．活性化するためにはお金が必要なので，絞れるところは絞る必要があるのではないか？
- 売上げを増やすには企業展示を増やす必要がある．企業リストを作成するなどで収入を増やすなどの工夫を検討する.
- 事務局より，2,800 万円ある繰越金の使途について質問があった．→　部門が開催する国際会議のときに使いたい．機械学会の評価システムでは，部門会計が黒字（3 年平均）でなければ部門評価がマイナスになるので，赤字にはできない．3 年平均の黒字でよくても，部門長は 1 年交替なので，自分が部門長のときに赤字にするというのはなかなか難しい.

という意見交換がなされた.

［その他］

特になし

第 104 期運営委員会開催予定について［藏田 部門幹事］

第 1 回　幹事会　　5 月 X 日（X）Web 会議
　　運営委員会　6 月 12 日（金）14:00～17:00　日本機械学会事務局（KDX 飯田橋スクエア）

第 2 回　幹事会　　X 月 X 日（X）Web 会議
　　運営委員会　X 月 X 日（X）（年次大会）

第 3 回　幹事会　　X 月 X 日（X）Web 会議

運営委員会　X 月 X 日（X）　関西大学（BF37）

第 4 回　第 104 期・105 期合同拡大幹事会 2027 年 3 月頃

以上